

今年の Rochester の冬は、例年に比べて暖かく雪もいまだにほとんど降っていない。そのため以前購入したブーツは役目を迎えることがなかった。しかしながら、石川の冬と比べるとかなり寒く日中でもマイナスの時もある。私は毎朝、服を何枚か着込み大学へ向かうが、ルームメイトは毎朝半袖で大学へ向かっている。ルームメイト以外の外国人も未だに半袖や半ズボンを着ている人が一定数おり、見ているだけで寒くなりそうだった。

11 月はクラスでプレゼンテーションやテスト、動画作りなど色々と準備をする必要のあるものが多くかなり忙しかった。特に動画制作が大変だった。内容は、個人的に興味のある内容を学生にインタビューするものである。そして、そのインタビューをもとに動画を作成するものである。インタビューは RIT の学生に行ったので、英語だけでコミュニケーションを取るのが難しかった。人によっては私の発音が良くないため聞き取れないこともあった。もっと発音の練習をしなくてはいけないと思った。質問の回答もその場だけでは完璧に理解することは出来ずに、家に帰ってから何度か確認する必要があった。1 度聞いただけで理解できるように、普段からもっとリスニングする機会を増やす必要があると感じた。テストやプレゼンテーションは以前から何度かやってきたものなので、比較的簡単だった。

11 月 24 日から 26 日までアメリカでは Thanks giving 期間だった。私は教会で知り合った日本人留学生の方達と Buffalo へ 2 泊 3 日の旅行へ出かけた。色々な観光名所へ行くはずだったが、度重なるアクシデントで予定していた場所へはほぼ行くことができなかった。観光名所へはあまり行くことが出来なかったが、Buffalo の街を散歩したり、カフェに入ったりと通常の観光とは異なる角度から Buffalo を見ることができた。また、11 月 26 日には Black Friday が開催されたため、ショッピングモールへ買い物をしに行った。コロナが流行してからは久しく見ていなかった活気に溢れたショッピングモールを見ることができた。

8 月の中旬から始まった、語学留学も気づけばもう終わってしまった。留学が始まった当初は英語だけの環境に不安になったことも多くあった。英語で質問されてすぐに英語で返答することに全く慣れておらず日常生活や授業で色々とストレスを抱える場面も多かった。留学が始まって 1 ヶ月が経った頃にはストレスが原因で顎の筋肉が緊張してしまい 1 週間まともに食事がとれないこともあった。この時は RIT の病院へ行き、薬を処方してもらうことで症状が収まった。自分の症状を英語で説明することができたため、自分の成長を少し感じることができた。11 月ごろからは、翻訳機などをほとんど使わくなり、自分の言いたいことを何とか表現できるようになった。しかし、いまだに展開の早い会話になるとすぐに自分の言いたいことが言えないため、まだまだ練習が必要である。今回の留学で、自分の今後のビジョンやそれを達成するために今後取るべき行動などを、具体的に考えることができた。英語力の向上だけでなく、自分の将来についても深く考えることができたことは大きな収穫であった。4 月までは自由に使える時間が多くあるため、自分のためになるように使っていきたいと思う。最後に、コロナが危険視されるこの時期に留学に送り出してくださった

本学、アメリカで助けてくださった色々な方へ感謝し、この気持ちを忘れずにしたいと思う。

